

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成30年11月8日(2018.11.8)

【公表番号】特表2017-531726(P2017-531726A)

【公表日】平成29年10月26日(2017.10.26)

【年通号数】公開・登録公報2017-041

【出願番号】特願2017-521508(P2017-521508)

【国際特許分類】

C 08 L 71/00 (2006.01)

【F I】

C 08 L 71/00

【誤訳訂正書】

【提出日】平成30年9月26日(2018.9.26)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

a) ポリ(エーテルエーテルケトン)(PEEK)、ポリ(エーテルケトン)(PEK)又はポリ(エーテルケトンエーテルケトンケトン)(PEKEKK)から選択されるポリマーと、b) ポリ(エーテルケトンケトン)(PEKK)とを含む組成物であって、ポリ(エーテルケトンケトン)(PEKK)がテレフタル酸単位とイソフタル酸単位の混合物を含み、テレフタル酸単位の重量パーセントが、テレフタル酸単位とイソフタル酸単位との合計に対して55から85%の間(境界値を含む)であることを特徴とし、組成物の総重量に対して1から40%の間(境界値を含む)の重量%のPEKKを含む組成物。

【請求項2】

組成物が複数のPEKKからなるブレンドを含むことを特徴とし、各PEKKが、テレフタル酸単位とイソフタル酸単位との合計に対して55から85%の間(境界値を含む)の重量パーセントのテレフタル酸単位を示す、請求項1に記載の組成物。

【請求項3】

少なくとも一の添加剤を含むことを特徴とする、請求項1又は2に記載の組成物。

【請求項4】

組成物中のPEEKの重量割合が、組成物の総重量に対して60から99%の間(境界値を含む)であることを特徴とする、請求項1、2及び3のいずれか一項に記載の組成物。

【請求項5】

ポリ(エーテルエーテルケトン)(PEEK)、ポリ(エーテルケトン)(PEK)又はポリ(エーテルケトンエーテルケトンケトン)(PEKEKK)から選択されるポリマーを含む組成物の降伏点及び/又は破断点伸びを改善するための方法であって、前記組成物中にポリ(エーテルケトンケトン)(PEKK)を配合することから成る方法であり、PEKKがテレフタル酸単位とイソフタル酸単位の混合物を含み、テレフタル酸単位の重量パーセントが、テレフタル酸単位とイソフタル酸単位との合計に対して55から85%の間(境界値を含む)であることと、PEKKが組成物の総重量に対して1から40%の間の重量%(境界値を含む)の割合で組成物中に配合されることとを特徴とする方法。

【請求項6】

レーザー焼結により、請求項1から4のいずれか一項に記載の組成物から生産される物

体。

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0008

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0008】

60から98の間の重量%の半結晶性PAEK及び40から2の間の重量%の非晶質PAEKを含むポリマーアロイが米国特許第5342664号より知られている。そのようなアロイは、半結晶性PAEK単独の場合と比較して、より高い破断点伸び及び低下した粘度を示す。しかしながら、この文献は、部品の变形の問題を生じさせる結晶化の速度に関して言及しておらず、過度に急速な結晶化の反応速度の結果として部品に現われる内部応力を除外するために、長期的且つ費用のかかるアニーリング後の段階を必要とする。アロイの降伏点についての言及はない。

【誤訳訂正3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0009

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0009】

総説 POLYMER, 1988, Vol. 29, June, pp. 1017-1020に見られる「Blends of two PAEK」と題する論文は、共に素早く結晶化するという際立った特徴を有するPAEK類の二つのポリマーであるPEEKとPEKとに基づくアロイの調製を記載している。この論文は、アロイの二つの化合物の結晶化及びそれらの性質について研究している。一方で、この論文は、結晶化の速度及び内部応力の出現と得られた部品の变形への影響、並びにアロイの機械的特性を研究していない。

【誤訳訂正4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0010

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0010】

Journal of the American Chemical Society, 1997, 30, pp. 4544-4550の「Dynamic study of crystallization and melting-induced phases separation in PEEK/PEKK blends」と題する論文は、PEEKとPEKKとのアロイを記載しており、イソフタル酸単位(I)に対するテレフタル酸単位(T)のT/I比率は30/70である。この論文は、50/50に等しい重量割合でPEEK中30/70PEKKの取り入れを明示し、アロイの二つの化合物の相互拡散の結果として、PEEKの結晶化を遅らせることを可能にする。この書類は、そのようなアロイの機械的特性を研究していない。